

四季報 草原灌漑

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol. 6

2009年12月発行

ニュースレター Vol.6 発行

「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」は、草原における環境保全型節水灌漑手法を確立するため、整備計画策定マニュアルの作成、内モンゴル自治区及び新疆ウイグル自治区に設置したモデル地区での効果の検証、研修コンテンツの作成と研修実施を目的として、07年6月から実施しております。

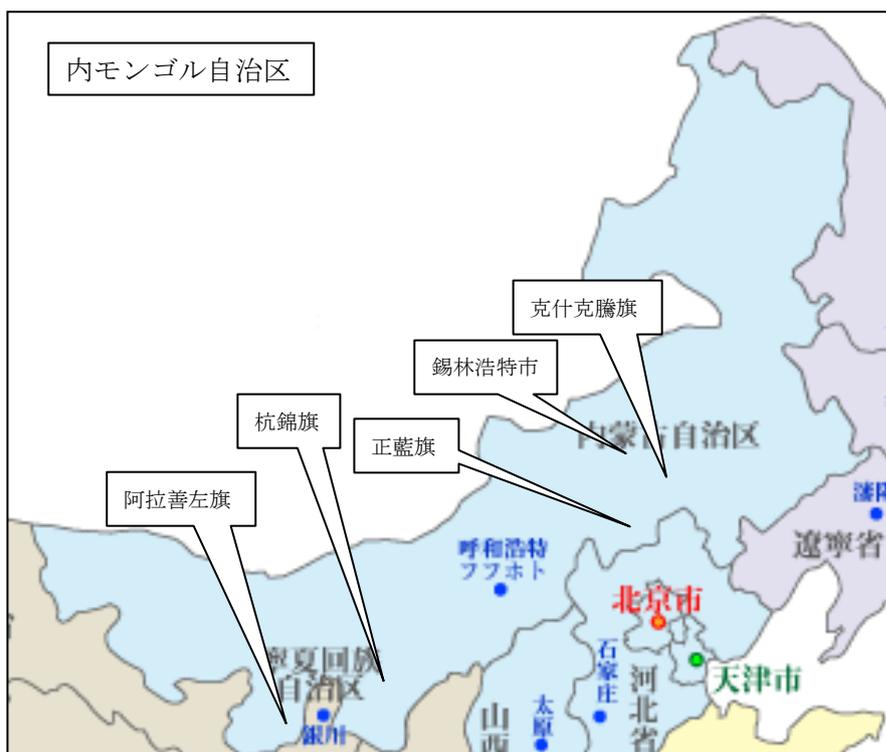
本ニュースレターは、このプロジェクトで行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的として、概ね4半期に一回発行しております。今回のVol.6では、09年10月から12月までの主な活動内容や出来事を紹介いたします。

- 1.内モンゴル自治区西部～東部現地調査及びモデル地区モニタリング(10月12日～21日)
- 2.本邦研修帰国報告会 内モンゴル杭錦旗(10月15日)
- 3.牧民研修 内モンゴル杭錦旗(10月15日)
- 4.水利部 鄂副部長 来中国灌漑排水発展中心(11月19日)
- 5.マニュアル編成委員会作業部会開催(12月2日～3日)
- 6.本邦研修帰国報告会 水利部及び中国灌漑排水発展中心(12月3日)

○活動内容・出来事

1. 内モンゴル自治区西部～東部現地調査及びモデル地区モニタリング (10月12日～21日)

「全国牧区草原生態系保護水資源保障計画」重要牧区において進められている牧区水利事業及び人工飼草料地の現状と課題等実態を把握し、今後のプロジェクト活動に資するため、内モンゴル西部～東部の現地調査を行いました。また、同視察とあわせて、プロジェクトモデル地区(内モンゴル自治区杭錦旗)において、営農状況のモニタリング等を行いました。



・農業総合開発モデル区農場（阿拉善左旗）



水源井戸



給水栓からの用水を土水路に導くための円筒型静水柵+導水口



収穫する牧民



飼料を運ぶ牧民



茎と身を分ける牧民



収穫後の圃場で放牧した羊（後ろに見える砂漠）

・プロジェクトモデル地区（杭錦旗）



収穫する牧民



収穫する牧民



実証試験 乾燥重量調査



実証試験 乾燥重量調査



牧民宅にてインタビュー



牧民の所有する刈り取り機

・沃原奶牛万 μ 節水灌漑高生産人工飼草料基地（錫林浩特市）



基地概要図

(図中のサークルはセンターピポットによる灌漑範囲)



説明を受ける専門家



半径 500m のセンターピポット（27,000 μ の農場にこれらが 16 基設置）

・公司農場（錫林浩特市）



幹線道路沿いにある農場看板



説明を受ける専門家



・牧民農場（克什克騰旗）

・公司農場（克什克騰旗）



説明を受ける専門家



説明を受ける専門家（奥にセンターピポット）

・節水灌溉モデル基地/育苗基地（正藍旗）



モデル基地/育苗基地



基地管理者から説明を受ける専門家



半径 380mのセンターピポット



錫林郭勒盟地域で普及が進む家畜の大型化

・牧民農場（正藍旗）



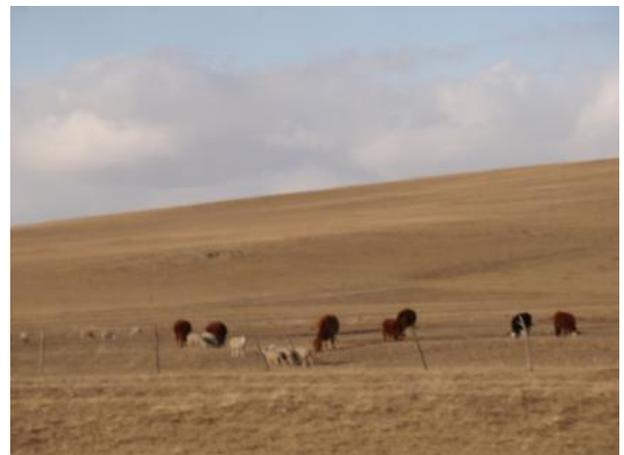
半径 380mのセンターピポット



能力 50m³/h の水源井戸



2008年5月に建設された新村



農場周辺の放牧地



搾乳舎へ向かう乳牛



搾乳舎内



長宅にてインタビュー



村長宅（村にはこのような住居が整然と並ぶ）

・責任公司農場（正藍旗）



多くの野菜を集出荷する公司の倉庫



公司農場（中央にセンターピボット）

2. 本邦研修帰国報告会 内モンゴル杭錦旗（10月15日）

本邦研修参加者がその成果を発表し、C/P 及び日本側専門家間で共有することを目的として、内モンゴル錦旗水務局会議室で帰国報告会を開催しました。

今回は、在中国日本大使館の空一等書記官にも参加いただき、冒頭の挨拶として、最近の日中交流を取り巻く状況や本プロジェクトへの期待などについて説明いただきました。次に、プロジェクト開始以降3ヶ年の研修者3名（内モンゴル水利庁 李科長、杭錦旗水務局 黄副局長、苗総工程師）が、日本における研修内容、日中の灌漑排水技術の相違、内モンゴルに導入可能な技術や管理方法などを発表しました。また、菊池チーフアドバイザーから、「日本の畑地灌漑について」と題し、日本の畑地灌漑の概要と地区事例の講義を行いました。



冒頭、挨拶する空一等書記官



報告を行う内モンゴル水利庁 李科長



報告を行う杭錦旗水務局 黄副局長



報告を行う杭錦旗水務局 苗総工程師



講義を行う菊池チーフアドバイザー



講義中の様子

3. 牧民研修 内モンゴル杭錦旗 (10月15日)

本プロジェクトにおけるモデル地区での活動の一環として、内モンゴル杭錦旗の試験圃場 (300 ムー) の牧民に対して、布哈岱村の集会議場で研修を行いました。

まず、吉田専門家から、水管理の考え方や、灌漑設備維持管理の必要性についてパネルを用いて講義を行いました。また、現地 C/P の杭錦旗水務局からは、韓股長が飼料用トウモロコシの生育段階に応じた必要な灌漑水量などについて、黄副局長がプロジェクトの目的と機材投入後の効果について、それぞれ講義を行いました。

講義後は、今年度の実証試験や村の状況等を聞き取るため、牧民、C/P 機関職員、日本側専門家による意見交換会を開催し、来年度の試験圃場 (300 ムー) における灌漑営農や実証試験へ取り組みがさらに意欲的になるであろうことが確認できました。



講義を行う吉田専門家



熱心に聞き入る牧民の方々



講義を行う杭錦旗水務局 黄副局長



講義を行う杭錦旗水務局 韓股長

4. 水利部 鄂副部長 来中国灌漑排水発展中心 (11月19日)

水利部 鄂副部長(副大臣)が、11月19日、中国灌漑排水発展中心の業務に関する会議に出席するため、中国灌漑排水発展中心を訪問されました。会議前にプロジェクトの専門家を視察していただき、日本側専門家にそれぞれねぎらいの言葉をかけていただいたほか、プロジェクトで作成したパンフレット等に目を通していただきました。



鄂副部長(左)、李主任(中)、菊池チーフアドバイザー(右)

パンフレットに目を通される鄂副部長

5. マニュアル編成委員会作業部会開催 (12月2日～3日)

本プロジェクトの大きな柱の一つである「整備計画」策定マニュアルを作成するため、中国灌漑排水発展センターにおいて、第3回マニュアル編成委員会作業部会を開催しました。

作業部会では、執筆者である中国灌漑排水発展センター、中国水利水電科学研究院、陝西省水利水電勘測設計研究院、河南省人民勝利渠管理局の水利技術者や、水利関係の学術誌の編成に携わる中国水利水電科学研究院、農業工程学報編集部の農業技術者に参集いただき、作成したマニュアル第3稿(全135頁)について検討を行いました。検討では、特に、マニュアルとして実用的かつ適切な内容とするための視点、また日本側専門家から提案があったコンパクトでわかりやすい内容とするための視点などにより、1頁毎に熱心な意見交換、修文等を行いました。この結果を踏まえて試行版を取りまとめ、マニュアル編成委員会で検討の上、全国の技術者に配布して幅広く意見を聞くこととしています。



冒頭、挨拶する菊池チーフアドバイザー

作業部会メンバーの方々

6. 本邦研修帰国報告会 水利部及び中国灌漑排水発展中心 (12月3日)

本邦研修参加者がその成果を発表し、C/P 及び日本側専門家間で共有することを目的として、中国灌漑排水発展中心会議室で帰国報告会を開催しました。

今回は、在中国日本大使館の空一等書記官にも参加いただき、冒頭の挨拶として、日中協力の最近の状況や今後のあり方、本プロジェクトへの期待などについて説明いただきました。

次に、プロジェクト開始以降3ヶ年の研修者5名を代表して3名（水利部農村水利司嚴家適処長、潘雲生調研員、中国灌漑排水発展中心 張素琴処長）の方に、日本における研修内容や日中の灌漑排水技術の相違、研修成果の活用などの発表を行っていただきました。また、発表後は、日本の土地改良法制定の背景や事業負担割合の考え方、土地改良事業における事業管理手法、本邦研修内容や日程など、研修に関連した幅広い内容について意見交換を行い、日中の水利技術交流を行うことができました。



冒頭、挨拶する空一等書記官



報告を行う水利部農村水利司 嚴家適処長



報告を行う水利部農村水利司 潘雲生調研員



報告を行う中国灌漑排水発展中心 張素琴処長



帰国報国会での意見交換の様子



帰国報告会での意見交換の様子

編集後記：

今回の四季報では、内モンゴル自治区西部～東部現地調査の状況を中心に、できるだけ多くの写真を掲載して、活動内容を紹介しました。内モンゴルの現地調査は、北京→阿拉善左旗→杭錦旗→（フフホト）→錫林郭勒盟錫林浩特市→赤峰氏克什克騰旗→錫林郭勒盟正藍旗→北京の約5千キロの行程を、9泊10日で行ったものです。車両での移動でしたので本当に大変でしたが、途中で10月中旬にもかかわらず見舞われた猛吹雪などのハプニングも含め、内モンゴルの牧区水利事情をしっかりと実感することができました。紙面を借りて、調査の手配をしていただいた内モンゴル水利庁、また現地でご説明いただいた方々にお礼を申し上げます。

2011年5月のプロジェクト終了まで、あと1年半弱となりました。より多くの活動成果を得るよう、日本側専門家、中国側カウンターパートが一体となって活動をしていきたいと思えます。引き続き、ご支援をお願いいたします。

プロジェクト所在地

〒100054

北京市宣武区広安門南街60号 榮寧園3号楼

中国灌漑排水発展中心日本専門家室

T E L : +86-10-6320-3380

F A X : +86-10-6320-3376

E-mail : jica-jieshuiguangai@hotmail.com

担 当 : 土岐 典広